

海上自衛隊の組織としての健康管理について



海上自衛隊大湊衛生隊
診療部長 五十嵐 正巳



青森県むつ市に所在する海上自衛隊大湊地区隊としても「短命県返上」という課題は他人事ではありません。むしろ自分事として日々の健康管理に取り組んでいます。

平成29年11月16日にプラザホテルむつにて第57回東北防衛衛生学会を自衛隊大湊病院（当時）と大湊衛生隊が共催で行いました。この学会の招待講演を弘前大学大学院特任教授 中路重之先生、特別講演を宮下宗一郎むつ市長（当時）にお願ひし両講演の座長を私が務めました。

招待講演で中路先生は我々

に「寿命改革・青森県における短命県返上活動とは」と題し講演されました。青森県は平均寿命ランキングで男女とも全国最下位であると。それも何年も（最下位）。男女とも上位の長野県とは平均寿命で2.6歳の差があると。両県の年代別死亡率は、各年代で青森県の死亡率が長野県を上回り、特に現役自衛官の年齢層とも重なる40～50歳代の働き盛りの年齢層で1.5倍も死亡率が高いという大変ショッキングな内容でした。長野県もりんごの産地であることから青森県が短命県なのはりんごのせいじゃないと話

されていたことを今でも覚えています。その主要な死因はがん、心臓病、脳卒中の3大生活習慣病によるとされ、①生活習慣が悪い、②健診受診率が低い、③病院受診が遅いまたは通院状況が悪い背景があると述べられました。

特別講演で宮下市長（当時）は「むつ市における健康増進の取組」と題し講演されました。むつ市の平均寿命は全国1、898市区町村のうち男性がワースト8位、女性がワースト16位であり全国最下位の青森県の中でもさらに下位に位置

する厳しい状況であると。社会的課題として取り組みを強化するため、平成27年の「健康づくり宣言」以来、中路先生の協力を得て「短命県返上」への取り組みを進めているという内容でした。むつ市民でもある自衛隊員の健康管理にむつ市の取り組みを活かしていかなければならないと我々も認識を新たにしたところでした。

私どもは令和3年度末に自衛隊大湊病院が廃院となり大湊衛生隊として組織改編しました。大湊衛生隊は北海道、青森県外ヶ浜町竜飛に所在する海上自衛隊員、下北半島に所在する自衛隊員の各種健康診断に従事しています。自衛隊には様々な職種、様々な年齢層の隊員がいるため、健康に関する意識が高い人もいれば低い人もいます。我々は日々の健康診断や診療において両講演で得た「短命県返上」への取り組みを意識して隊員に対する健康指導を根気強く行っています。

診療については大湊衛生隊診療所として主に糖尿病、高血圧、脂質異常症、高尿酸血症等の生活習慣病の診療や歯科診療を行っています。また、むつ総合病院を初め県内医療機関とは医療連携や自衛隊医官が交代で地域の救急医療に参加するなど協力関係となつています。これからも青森県やむつ市と共に我々は県内の自衛隊員の健康管理を通じて「短命県返上」に寄与していきたいと思っています。

